

	和歌山大学 学際分野
学部等の教育研究 組織の名称	観光学部（第1年次：110名） 観光学研究科（M：5名）
沿 革	大正11（1922）年 和歌山高等商業学校設置 昭和19（1944）年 和歌山高等商業学校を和歌山経済専門学校に改称 昭和24（1949）年 和歌山大学経済学部設置 平成19（2007）年 経済学部観光学科設置 平成20（2008）年 観光学部設置 平成23（2011）年 観光学研究科設置
設置目的等	<p>昭和24（1949）年に、経済社会のさまざまな問題を真摯に受け止め、的確に判断し創造的・実践的に対応できる人材を育成することを目的として、経済学部が設置された。</p> <p>平成19（2007）年に、観光立国政策に資する人材の養成を目的として、経済学部に関光学科を設置した。</p> <p>平成20（2008）年に、観光産業及び関連産業等に従事する理論的、実務的な教育を受けた専門家の育成を主な目的とするとともに、地元経済界及び観光業界に資するため、観光学部を設置した。</p> <p>平成23（2011）年に、観光まちづくり等に従事する理論的、実務的な教育を受けた専門的職業人の育成を主な目的とするとともに、応用力、創造力、そして人間性に富み、国際的視野で行動できる人材を育成することを目的として、観光学研究科を設置した。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>【総論】</p> <p>和歌山大学における学際分野においては、真理の探究を図るとともに、我が国における観光学分野の普遍的役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。</p> <p>引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。</p> <p>【教育】 (学部)</p> <p>○ 観光学の学問分野の教育研究を通じて、観光に関わる総合的な専門的見識、幅広い分野の観点を理解する学際的見識、異文化コミュニケーション</p>

ョン能力、現実的な諸課題を解決する汎用的で実践的能力を有し、狭義の観光業に留まらず、観光との接点を深めつつある多方面において活躍できる人材を養成する。

- このため、学生と教員とが、地域諸機関との連携・交流を図りながら、問題解決に向けた調査研究に従事し、研究成果の社会還元を図る地域インターンシップなどを実施している。
- 今後、地域及び海外をフィールドとする実践型演習やインターンシップの充実に取り組む等、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等により、学士課程教育の質的転換に取り組む。

(大学院)

- 観光学の全体像を習得し、観光経営・地域再生・観光文化の3つの領域において、そのいずれかに精通しつつ、より高度な専門性を獲得でき、かつ全体に目配りした学際的・汎用的な能力を有する高度専門職業人を養成する。
- このため、観光学理論に関する講義やフィールド研究の機会の更なる充実に取り組んでいる。
- 今後、観光学分野における更に高度な専門的職業人を養成することを通じて、我が国の観光教育研究の拠点としての役割を果たすため、博士後期課程を設置し、博士課程全体の教育カリキュラムの見直しを行う等社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。
また、サリー大学（イギリス）と連携した授業科目を設定するなど観光学分野における高い教育研究実績を有する大学との連携を通じ、教育の国際通用性を確保する。

【研究】

- 観光学分野では、マーケティング、マネジメントなど観光経営における基本分野に加え、持続性ある地域づくりを目指す「まちづくり」、都市・農村交流を焦点とする「グリーンツーリズム」、環境保全に配慮した「サステナブルツーリズム」など、観光研究において普遍的なテーマについて現代日本の社会・文化的背景、環境に焦点をあてた研究などを推進している。また、研究活動の国際化の一環として、英語論集「ACADEMIC WORLD of Tourism Studies」を世界に向けて発信している。
- これらの取組を通じて、観光学術学会の設立や学部設立以降、学術研究としての観光学の確立のため、関連専門書を年2～3冊公刊している。
- 今後、日本の観光研究を科学的な理論にまで深化させるため、理論から実践と結びついた現状分析に至る研究活動を積み上げ、総合的な研究

を組織的に推進するとともに、我が国の社会・文化に焦点をあてた観光学分野に関する研究成果を国際的に広く発信する。

【その他】

- 観光学研究ネットワークを拡充するため、国内外の観光学分野における先端研究者や観光業界のリーダー等による観光教育研究アドバイザーボードを平成 25 年度に発足させるとともに、特別研究員制度により国内外から研究者を招聘し、これらの客員フェロー・研究員と連携しつつ多様な研究活動を実施する。
- 専門性と学際性を有機的に統合する観点から、授業内容の高度化、サリー大学（イギリス）との相互連携や履修方法の改革を行いつつ、既存教育組織の見直しを行うなど、全学的な機能強化を図る観点から、18 歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織のあり方、規模等の見直しに取り組む。